ファルディアス語入門

tus pík fardías'ür

Writer / Fardisian Producer　çafían ferçeta

０－１　序言

ファルディアス語（フ fardias, 英 Fardisian, 仏 fardisais）は，架空世界で用いられている事を想定して，私，Cafian Ferceta（シャフィアン・フェルシェタ）が作った言語です。

単語数は豊富とは云えませんが，語彙の増加次第で日常会話に用いることが出来るよう，文法体系・語法体系が構築されています。ここでは，架空世界に就いての説明を一切省略して，ファルディアス語に就いて御紹介します。

０－２　参照した言語

ファルディアス語は，地球の幾つかの言語体系を元に作られました。参考にしていた言語は，ラテン語・俗ラテン語・ロマンス語・中世フランス語・現代フランス語・ドイツ語・ベトナム語・中国語などです。特に，ラテン語・中世フランス語・ドイツ語からの影響が大きいと云えます。次項より，ファルディアス語の説明に入ります。

１－１　文字と音

文字は，ラテンアルファベット（英語のアルファベット）と殆ど同じ物を使います。但し，幾つか追加されている文字があります。以下に一覧を示します。尚，大文字はファルディアス語では一切使用しません。

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z ç ü ö

音は，ローマ字読みと違うもの，追加されたもの，2 つ以上の文字を組み合わせて読むものについて説明します。又，**語末の s は発音しません。**

c，ç	英語の sh，日本語のシャ行
h，r x，ch	前に母音が有る場合，母音を伸ばす記号。 　後ろが子音の場合は読まない(çh，ch は除く)
q	英語の ch，日本語のチャ行
çh	日本語のヒャ行
tz	英語の ts，日本語のツァ行
ü，ei，ie	英語の yu，日本語の「ユ」
ö，ai	英語の e，日本語の「エ」
ia	i と同じ発音。「イ」。

２－１　語順

語順は，以下の通りになることが殆どです。英語では第一・第二～第五文系などがありますが，ファルディアス語では常にこの文型（語順）です。

主語－動詞－助副詞－その他の要素－終詞

助副詞と終詞に就いては，後ほど解説します。

なお，修飾を行う場合は，ファルディアス語では必ず後置修飾（被修飾語-修飾語の順番）を行います。

２－２　動詞

動詞は，人称変化（英語で言う三単現の s や，am / are / is の様なもの）や，時制による変化（英語でいう ed や，was / were の様なもの）は有りません。英語で言う動名詞である「名詞形」が存在します。

原型は全て “-e” が付いた形になっており，動詞として使うときはこれを “-eete” と変えて使います。名詞形として使う際にはこれを “-eçhüz” と変えます（文字も発音も分かりにくいですが，前ページの「文字と発音」を参照して下さい）。実際の動詞の例も用いて図解すれば，以下の通りです。

形		例(este / である)	例(urve / 話す)
原型	-e	este	urve
動詞形	-eete	esteete	urveete
名詞形	-eçhüz	esteçhüz	urveçhüz

２－３　名詞

名詞は，役割に応じて変化します。日本語の「て・に・を・は」のようなものだと考えて下さい。ファルディアス語では，「主語」「対象（修飾語と連用修飾語と主語以外の名詞）」「修飾語」「連用修飾語（副詞）」の 4 つの形が有ります。例も用いて図解すると，以下の通りです。

尚，名詞を変化形にする際は，名詞とこれらの語の間にアポストロフィを挟みます。

形		例(les / 私)	例(ank / 猫)
主語	-içh	les'içh	ank'içh
対象	-is	les'is	ank'is
修飾語	-ür	les'ür	ank'ür
連用修飾語	-ant	les'ant	ank'ant

３－１　助副詞

助副詞とは，英語で言う助動詞の様なものです。動詞ではなく副詞として扱うため，この様な分かりにくい名称になっています。用法は副詞と同じですが，動詞の直後に置いて用います。助副詞は数が多いため，そう簡単に覚えられませんが，とりあえず列挙します。

語	意味	語	意味
yoseçhüz	許可(～してよい)	foreçhüz	習慣(～している)
kaneçhüz	可能(～できる)	wereçhüz	嘲笑(～(笑))
seneçhüz	推奨(～すべき)	enteçhüz	勧誘(～しませんか)
moneçhüz	義務(～しなければならない)	areçhüz	経験(～したことがある)
waneçhüz	願望(～したい)	nijeçhüz	提案(～しましょう)
weseçhüz	意思・伝聞 (～しようと思う・らしい)	orjeçhüz	依頼・丁寧命令 (～して貰えませんか)
reseçhüz	推測(～だろう)	yeizeçhüz	使役(～させる)
freçhüz	推定・受け身 (～かもしれない・された)	füteçhüz	開始(～し始める)

３－２　終詞

終詞とは，文全体の意味を明確にするために文末に置くものです。日本語の「～ます」「～か？」「～ね」などに相当します。一般終詞と，修飾終詞が有ります。「関」と書かれた関係終詞については「関係節」の項で説明します。平叙文では，終詞は用いません。

否定	ser	連体・関	tans
疑問	fir	理由・関	tüp
命令	tach	結果・関	tük
強調	tzent	仮定・関	tüt
修飾・関	tüs	疑問・関	fitüs

３－３　接続詞

接続詞は，以下の通りです。単語と単語・文と文など対等なもの同士を接続します。

yun, set, et, tüt	順接，並立 (and)
pach, toch	逆説 (but)
öor, toar	選択 (or)

４－１　関係節

関係節とは，英語で言う that 節や従属節です。文の中に文を（節という名目で）埋め込むもののことです。関係節は，文の中に「動詞の名詞形と，関係終詞で挟んだ文」を埋め込むことで作ります。主語は，本来動詞の前に置くものであっても，関係節の中では動詞（の名詞形）の後に置きます。文の中での関係節の役割に応じて，どの関係終詞を用いるかを決定します。

４－２　数詞

ファルディアス語の数字は，例えば 432 なら「よん・さん・に」という様に，又，英語で表すなら “four, three, two” という様に，数字をそのまま読んでいくだけです。

数字をファルディアス語で綴るときには，それぞれをハイフンで繋ぎます。数字は以下の通りです。但し，0 を何回も読むと面倒なので，纏めた呼び方が有ります。

数一覧

0　nois	6　sich	0000　sis
1　ans	7　fait	例
2　fei	8　cait	432　çher-rit-fei
3　rit	9　tins	20　fei-nois
4　çher	00　ous	2012　fei-nois-ans-fei
5　whüs	000　pis	700098　faht-pis-tins-cait

４－３　基本単語

基本的な単語がわからないと文の作り様が無いので，掲載します。単語は，ここに掲載しているものの他に 700 単語程度作られています。

～である	este	私	les
持つ	alle	貴方・君	wu
好む	ele	彼	jors
愛する	eliice	彼女	jars
居る・ある	eze	学生・生徒	less
話す	urve	学校	ster
学ぶ	lebe	猫	ank
書く	ne	ファルディアス語	fardias
読む	aze	日本	japan
行く	ge	日本語	japanüris
来る	zege	イギリス	rankastia
食べる	atte	アメリカ	amerikia
面倒だと感じる(動詞)	ennevie	英語	rankastis
特に理由は無いが何となく学校に行きたくないと思う(動詞)			gedeccelie

０－３　跋文

以上，基礎の基礎だけでしたが，ファルディアス語概説について記しました。それぞれの項目にも細かい注意点が有りますし，又，例文などもそれぞれ載せるべきでしたが，紙面の都合上，大きく省略してあります。単語についても全く，簡単なものしか掲載できていません。

本来は架空世界で用いられる言語であることから，このファルディアス語にも 1 つの言語としての歴史が有り文化が有ります。無作為・無秩序に作られたものではなく，単語や文法の変遷なども考慮されています。勿論，異文化という環境の中で，彼ら・彼女らがどういう思考と思想を以てこの言語を話しているのか，ということも考えの中に入れながら，この言語は制作されています。

現実世界での話をすれば，このファルディアス語は，日本に存在する，幾つかのより優れた人工言語の中でも特に新しいものです。今日，少なくとも日本で主流となっている人工言語は「芸術言語」と呼ばれ，多くの人間に使われずとも，文化や風俗を作りこむことで，人工言語によって 1 つの世界を作り上げるというものです。これらに属するものには，セレン・アルバザード氏の「アルカ」，ヘルテ氏の「ミリ語」，そして Ziphi Aleshlas 氏の「シャレイア語」などが有ります。いずれも非常に洗練された言語で，特に，人工言語アルカの作りこみ具合は生半可なものでは有りません。よく考察されている，1 万 5000 に上る単語数に加え，10 年を越える歳月に渡って実際に話されてきたという実績は，人工言語の世界では尋常なことではなく，アルカとセレン氏は，日本の人工言語界に多大なる功績を残しています。

ファルディアス語制作に当たって相談に乗って下さった，上記 3 氏を始めとする人工言語界の方々，この投稿に際して校正を引き受けてくれた友人，また，編集と構成などして頂いた蜻蛉委員会の皆さん，有り難う御座いました。

最後に，このファルディアス語入門を読んで下さった方々，非常に拙文で，かつ情報量不足であったことを深くお詫び申し上げます。又，お時間を削って目を通して頂いたことに感謝します。

2012 年 9 月 28 日　çafian ferçeta